

部品品番	組み合わせ品名	投光器台XSS28	投光器台XSS26	投光器台XSS24	投光器台XSS22
取付バンド YK22815		×1	×1	×2	×2
2灯用投光器台 YK05112			×1		×1
4灯用投光器台 YK05114		×2	×1	×1	
投光器台バンド YK05151		×2	×2	×1	×1
安定器取付台 YK05161		×4	×3	×2	×1
斜めサポート YK05171		×1	×1	×1	×1
補助上下サポート YK05173		×1	×1		
支持部材 YK05195				×1	
安定器取付架台支持金具 YK05196				×1	×1
最大重量 (投光器、安定器を含む)		460kg	349kg	231kg	118kg
掲載ページ数		2~4	5~7	8~10	10~12

この商品の施工には電気工事士の他、クレーン取扱者および玉掛け作業の免許・資格が必要です。施工は必ず工事に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意



警告

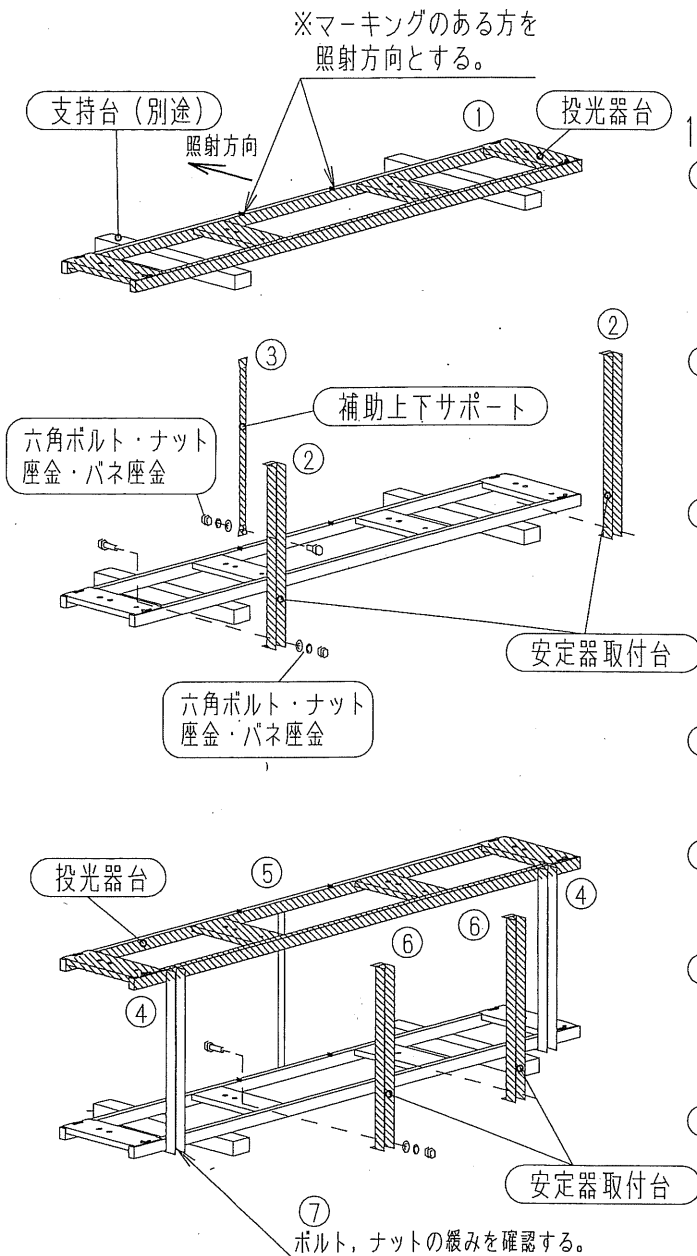
- 施工は取扱説明書の指示にしたがい確実に施工を行う。
施工に不備があると落下の原因となります。
- 総重量に耐えるワイヤー、クレーンをご用意する。
この商品は地上で組み立てた後、吊り上げて施工するタイプです。
ワイヤー強度およびクレーンの能力が不十分な場合は落下・事故の原因となります。
- 高所での作業は必ずそれに適した格好（ヘルメット・安全帯の着用等）にて施工を行う。
軽装での高所作業は落下事故の原因となります。
- 総重量に耐える支持台をご用意する。
地上での組み立て作業時には仮置き用の支持台が必要です。総重量に耐える支持台をご用意ください。
支持台の強度が不十分な場合は投光器台転倒の原因となります。
- コンクリートポールおよび基礎は事前に取り付ける投光器を確認の上、十分な強度を有するものを用意する。
強度が不十分な場合は落下の原因となります。
- 振動や衝撃、腐食性ガス、粉じんの影響を受ける場所では使用しない。
落下の原因となります。
- 現場での改造や適合投光器以外のものの取り付けは絶対に行わない。
落下の原因となります。



注意

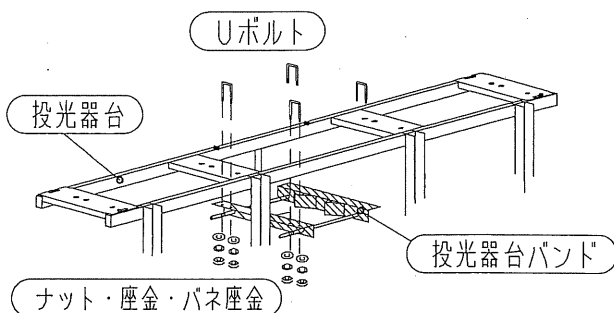
- この商品はテーパータイプのコンクリートポール専用です。
これ以外のポールへの取り付けは落下の原因となります。
- ポールの取付部径はφ190～φ290です。
これ以外のサイズへの取り付けは落下の原因となります。
- 投光器台は必ず水平に取り付けてください。
投光器台がかたむくと落下の原因となります。
- 投光器台の配置は必ず左右対称となるように取り付けてください。
アンバランスな投光器の配置は落下の原因となります。

各部の名前と取り付けかた (XSS28 その1)



1. 投光器台の組み立て

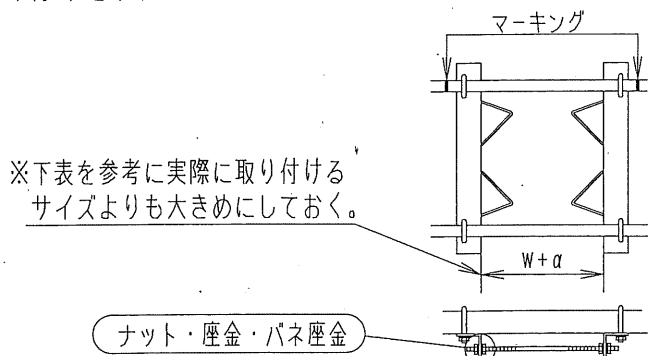
- ① 支持台 (枕木等) を適当な間隔で地面に置き、その上に投光器台を乗せる。
・支持台は十分な強度を有するものをご用意ください。
支持台の強度が不十分な場合は投光器台の転倒の原因となります。
- ② 安定器取付台両端2本をボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。
・上下方向は貼られているラベルの向きにしたがってください。
- ③ 補助上下サポートをボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。
- ④ 安定器取付台に投光器台 (上段) をボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。
- ⑤ 補助上下サポートに投光器台 (上段) をボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。
- ⑥ 安定器取付台内側2本をボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。
・上下方向は貼られているラベルの向きにしたがってください。
- ⑦ 全体の垂直を水準器等で確認しボルト、ナットの増し締めを行なう。(10カ所)
・ボルト、ナットは確実に締め付けてください。
ボルト、ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。



※投光器台バンドがスライドできるように仮止めとする。

2. 投光器台バンド (上段用) の取り付け

マーキングを目安にして投光器台 (上段) 中央部に投光器台バンドを下から当て、Uボルト、ナットで仮止めする。

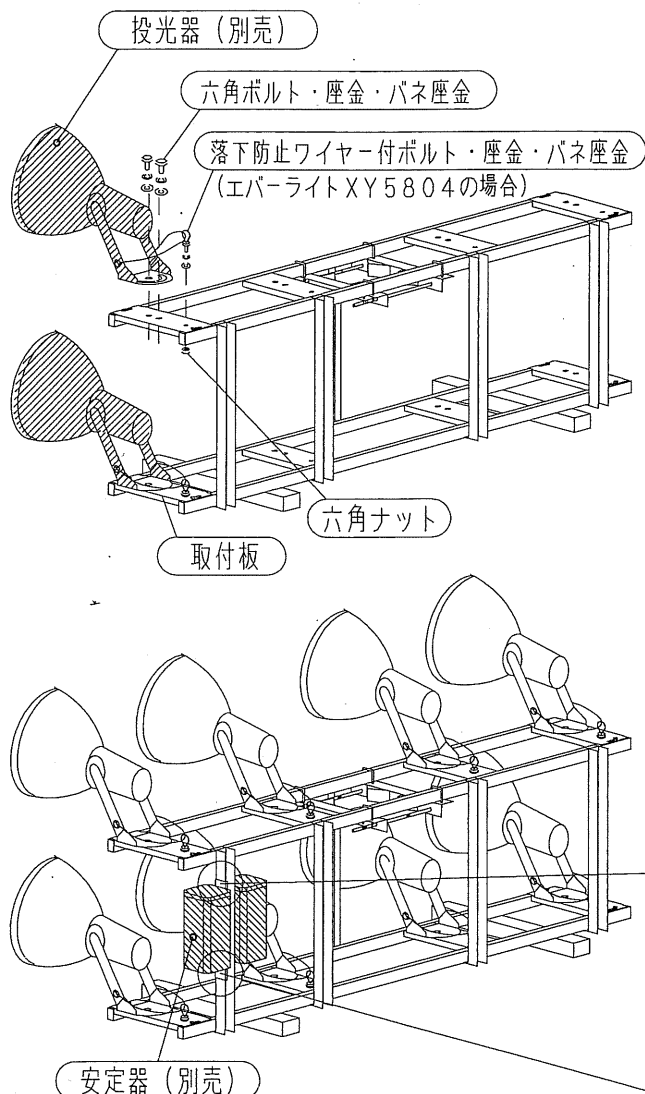


※下表を参考に実際に取り付けるサイズよりも大きめにしておく。

コンクリート柱取付時のW寸法

取付位置	コンクリート柱の 未口徑	φ190	φ220	φ240
ポール先端から50cm		213mm	258mm	288mm
ポール先端から140cm		231mm	276mm	306mm

各部の名前と取り付けかた (XSS28 その2)



3. 投光器の取り付け

投光器を投光器台の取付板にボルト2本で取り付ける。

- ・ボルト (M16) は締付トルク $111 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

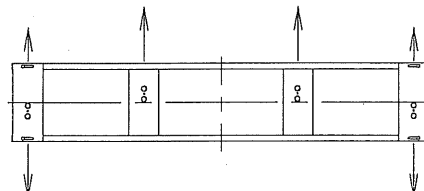
ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

落下防止ワイヤー付ボルトを六角ナットで投光器台に固定する。

- ・ボルト (M10) は締付トルク $37 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

・投光器の配置は必ず左右対称となるように取り付けてください。
アンバランスな投光器の配置は落下の原因となります。

照射方向 (固定) 照射方向 (固定)



投光器台両端の取付板は、反対向きに取付けると、照射方向を変えることができます。

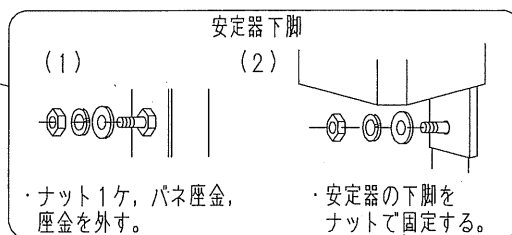
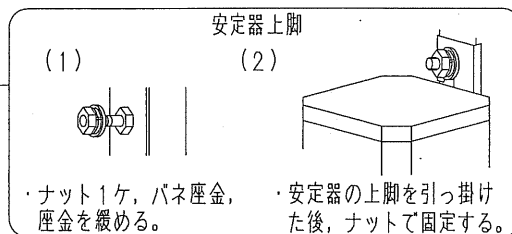
照射方向 (変更可)

照射方向 (変更可)

- ・取付板の向き変更は必ず地上にて行なってください。
高所作業は落下事故の原因となります。

4. 安定器の取り付け

安定器取付台に安定器を取り付ける。



- ・ナット (M8) は締付トルク $13 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

5. 投光器, 安定器の配線工事

投光器と安定器二次側の結線をする。

- ・詳細は投光器, 安定器の取扱説明書をご参照ください。

6. 投光器台バンド (下段用) の取り付け

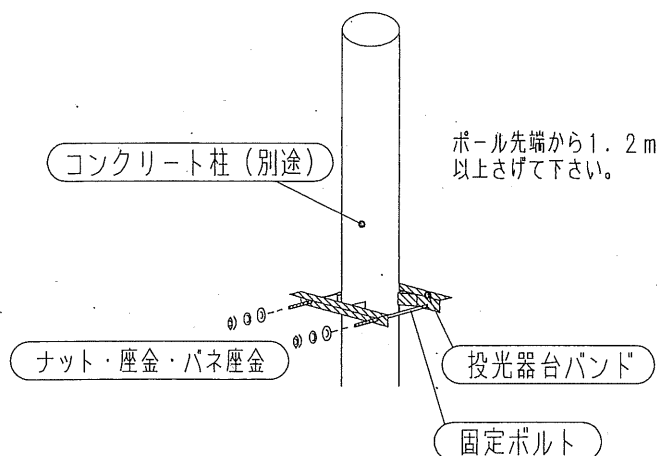
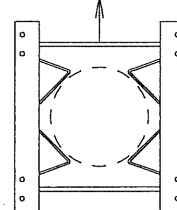
投光器台バンド (下段用) をコンクリート柱に固定ボルト

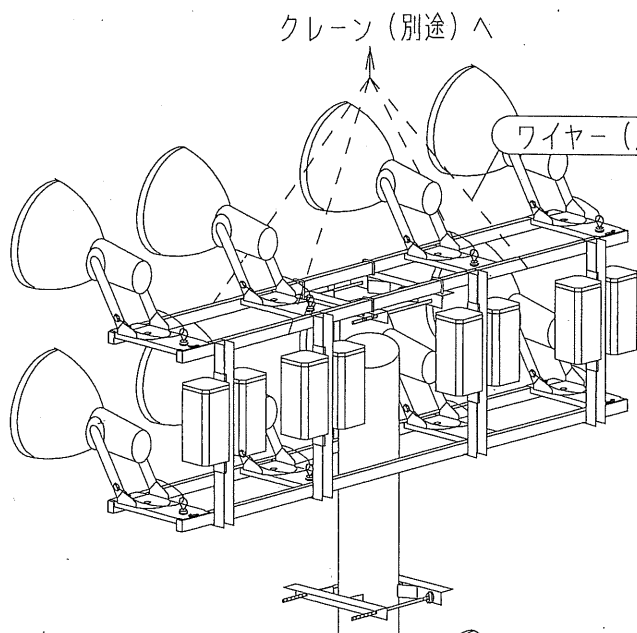
(M12), ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付ける。

この時、下段の投光器台取付位置に合わせて下さい。

- ・投光器台バンドは確実に締め付けてください。(照射方向)
投光器台バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

※照射方向に対して右図の向きに取り付けてください。





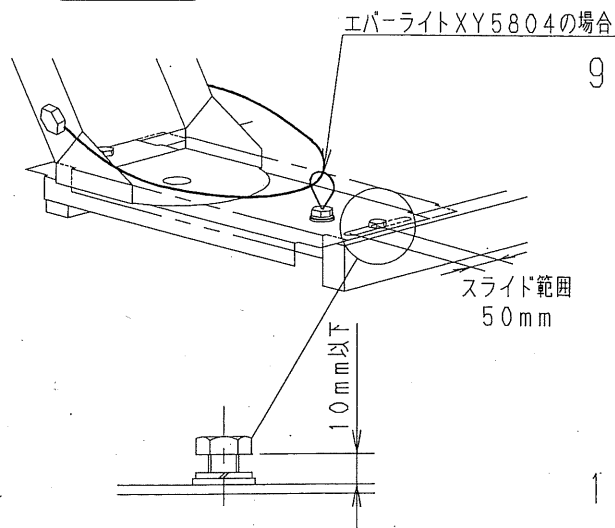
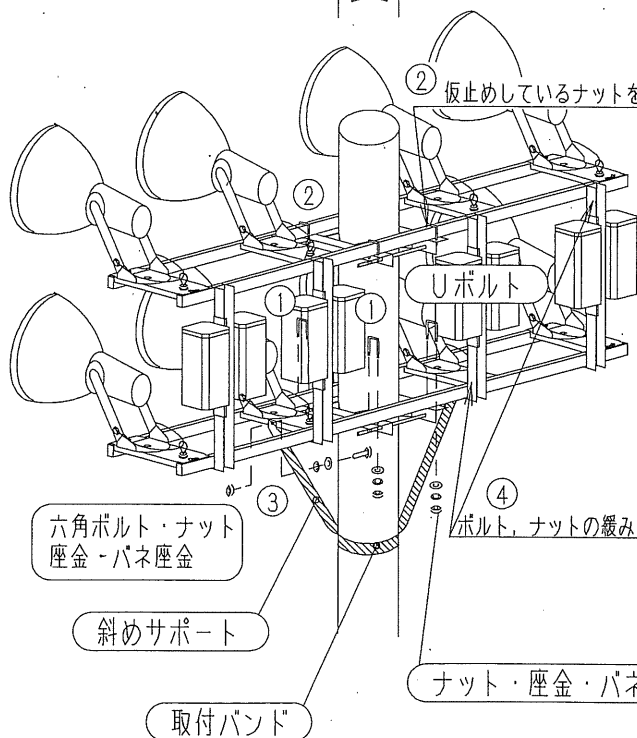
7. 投光器台の吊り上げ

上段の投光器台にワイヤーを掛け、クレーンで吊り上げ、コンクリートポールに通す。

- ・ワイヤー、クレーンは総重量に耐えるものをご使用ください。ワイヤーの強度およびクレーンの能力が不十分な場合は落下・事故の原因となります。
- ・架台がかたむかないようにワイヤーをかけてください。また、ワイヤーは必ず投光器台の角パイプ部分にかけてください。落下の原因となります。
- ・ワイヤーは投光器台がコンクリートポールに完全に固定されるまで外さないでください。落下の原因となります。

8. 投光器台の取り付け

- ① 投光器台を投光器台バンド (下段用) の上に乗せ、Uボルトを通しナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・ナットは確実に締め付けてください。ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
 - ・投光器台は水平で、かつポールがセンターにくるように取り付けてください。落下の原因となります。
- ② 上段の投光器台に仮止めしている投光器台バンドを固定ボルト (M12)、ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にてコンクリートポールに締め付け、投光器台をUボルト、ナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・投光器台バンドおよびナットは確実に締め付けてください。投光器台バンドおよびナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ③ 斜めサポートの上部を下段の投光器台の取付板の外側にボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定し、下部を取付バンドでコンクリートポールに固定する。
 - ・ボルト、ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。ボルト、ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ④ 安定器取付台、補助上下サポートのボルト、ナットの緩みがないかを確認する。(10ヶ所)
 - ・ボルト、ナットに緩みがある場合は必ず増し締めしてください。ボルト、ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。



9. 投光器配光の調整

照射・配光方向を確認して投光器の角度を調整してください。

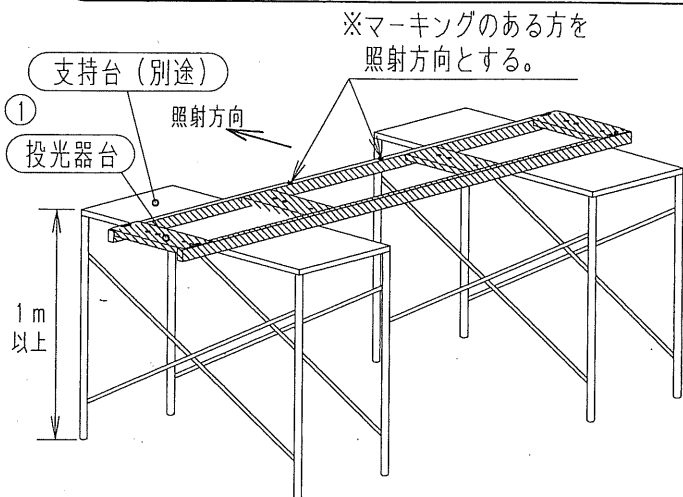
- ・投光器台両端の取付板をスライド (範囲: 50 mm) させ広くと、照射方向を大きくすることができます。(1kW用投光器の場合)
- ・固定ボルトは外さずに 10 mm 緩めてスライドさせてください。固定ボルトを外したり外れそうな状態でスライドさせると投光器落下の原因となります。
- ・ボルト (M10)、ナットは締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。固定ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

10. 電源の接続

電源線 (別途) と安定器の一次側を結線する。

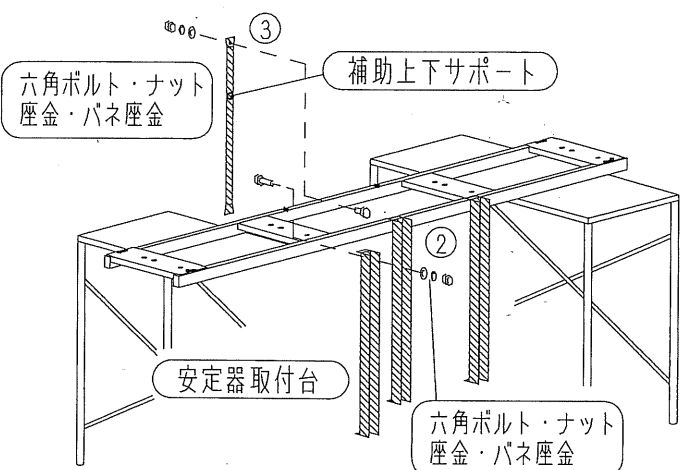
- ・詳細は投光器、安定器の取扱説明書をご参照ください。

各部の名前と取り付けかた (XSS26 その1)



1. 投光器台の組み立て

- ① 支持台 (足場等) を適当な間隔で設置し、その上に投光器台 (上段; 4 灯用) を乗せる。
・支持台は十分な強度を有するものをご用意ください。
・支持台の強度が不十分な場合は投光器台の転倒の原因となります。
・支持台の高さは 1 m 以上必要です。



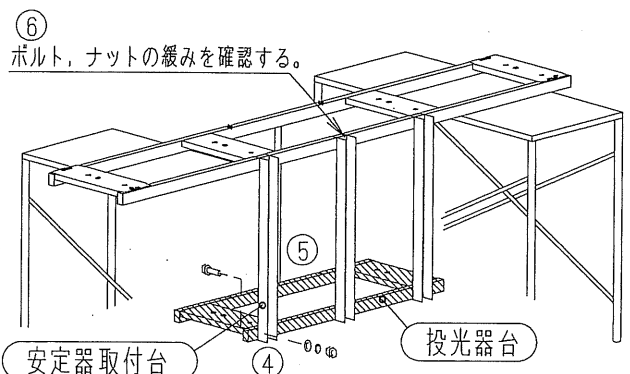
- ② 安定器取付台をボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。
・上下方向は貼られているラベルの向きにしたがってください。

- ③ 補助上下サポートをボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。

- ④ 安定器取付台に投光器台 (下段; 2 灯用) をボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。

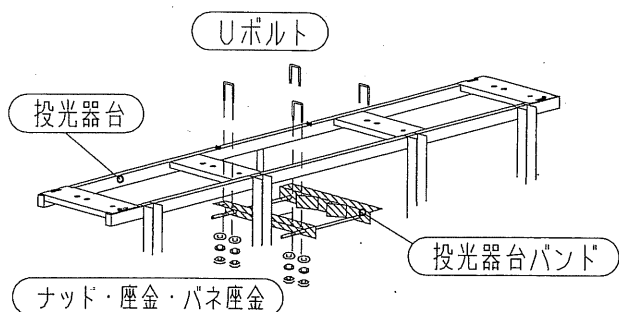
- ⑤ 補助上下サポートに投光器台 (下段; 2 灯用) をボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。

- ⑥ 全体の垂直を水準器等で確認しボルト, ナットの増し締めを行なう。(8 力所)
・ボルト, ナットは確実に締め付けてください。
・ボルト, ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。



2. 投光器台バンド (上段用) の取り付け

マーキングを目安にして投光器台 (上段) 中央部に投光器台バンドを下から当て、Uボルト, ナットで仮止めする。

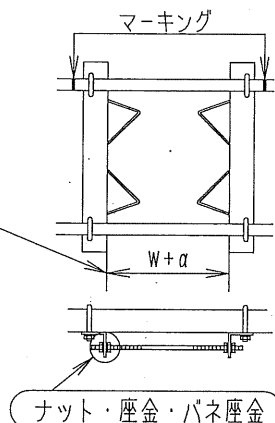


※投光器台バンドがスライドできるように仮止めとする。

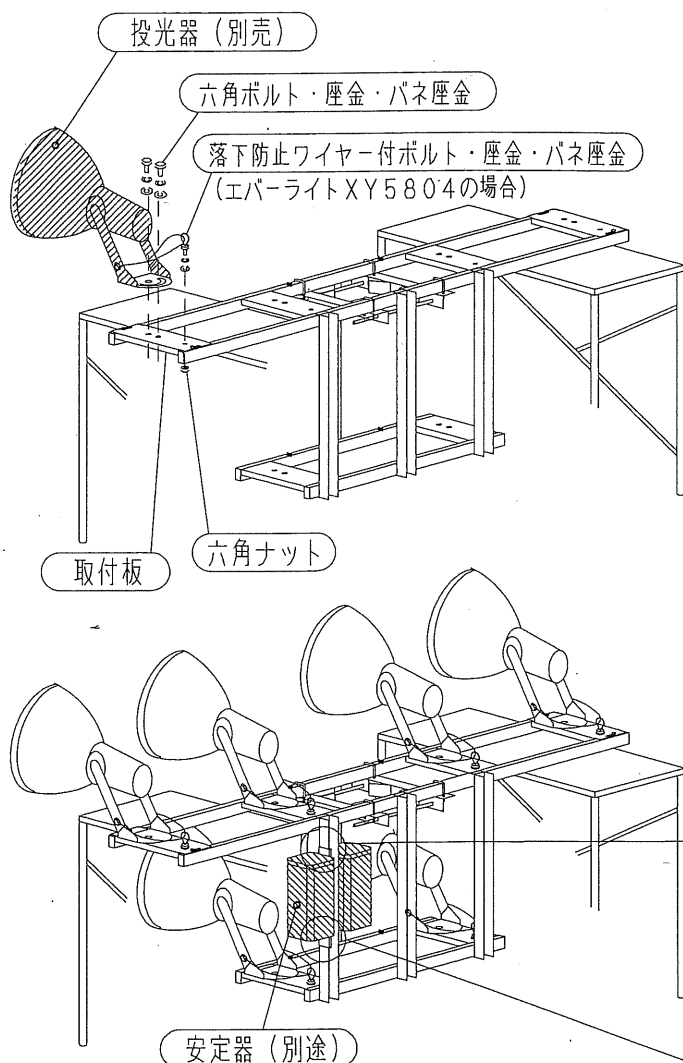
※下表を参考に実際に取り付けるサイズよりも大きめにしておく。

コンクリート柱取付時のW寸法

取付位置	コンクリート柱の 開口径	φ190	φ220	φ240
ポール先端から50cm		213mm	258mm	288mm
ポール先端から140cm		231mm	276mm	306mm



各部の名前と取り付けかた (XSS26 その2)



3. 投光器の取り付け

投光器を投光器台の取付板にボルト2本で取り付ける。

・ボルト (M16) は締付トルク $111 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

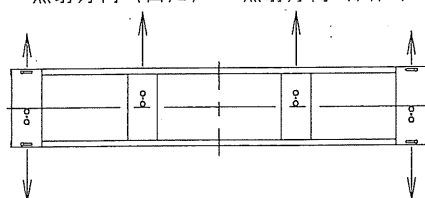
ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

落下防止ワイヤー付ボルトを六角ナットで投光器台に固定する。

・ボルト (M10) は締付トルク $37 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

・投光器の配置は必ず左右対称となるように取り付けてください。アンバランスな投光器の配置は落下の原因となります。

照射方向 (固定) 照射方向 (固定)



投光器台両端の取付板は、反対向きに取付けると、照射方向を変えることができます。

照射方向 (変更可)

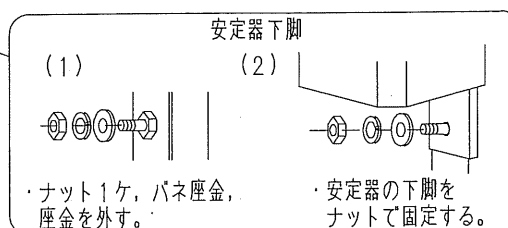
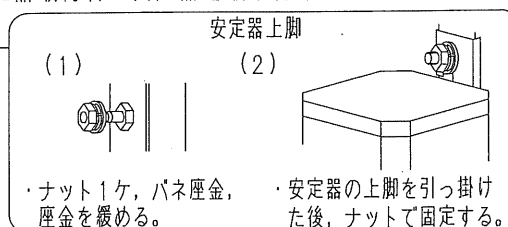
照射方向 (変更可)

・取付板の向き変更は必ず地上にて行なってください。

高所作業は落下事故の原因となります。

4. 安定器の取り付け

安定器取付台に安定器を取り付ける。



・ナット (M8) は締付トルク $13 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

5. 投光器, 安定器の配線工事

投光器と安定器二次側の結線をする。

・詳細は投光器, 安定器の取扱説明書をご参照ください。

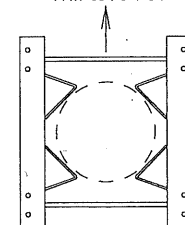
6. 投光器台バンド (下段用) の取り付け

投光器台バンド (下段用) をコンクリート柱に固定ボルト (M12), ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。この時, 下段の投光器台取付位置に合わせて下さい。

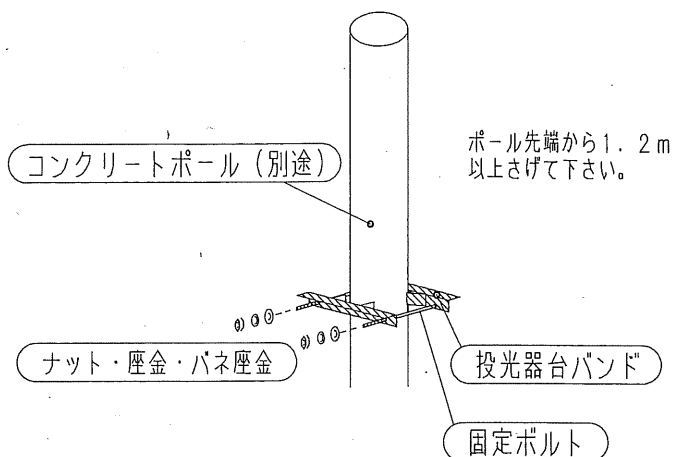
・投光器台バンドは確実に締め付けてください。

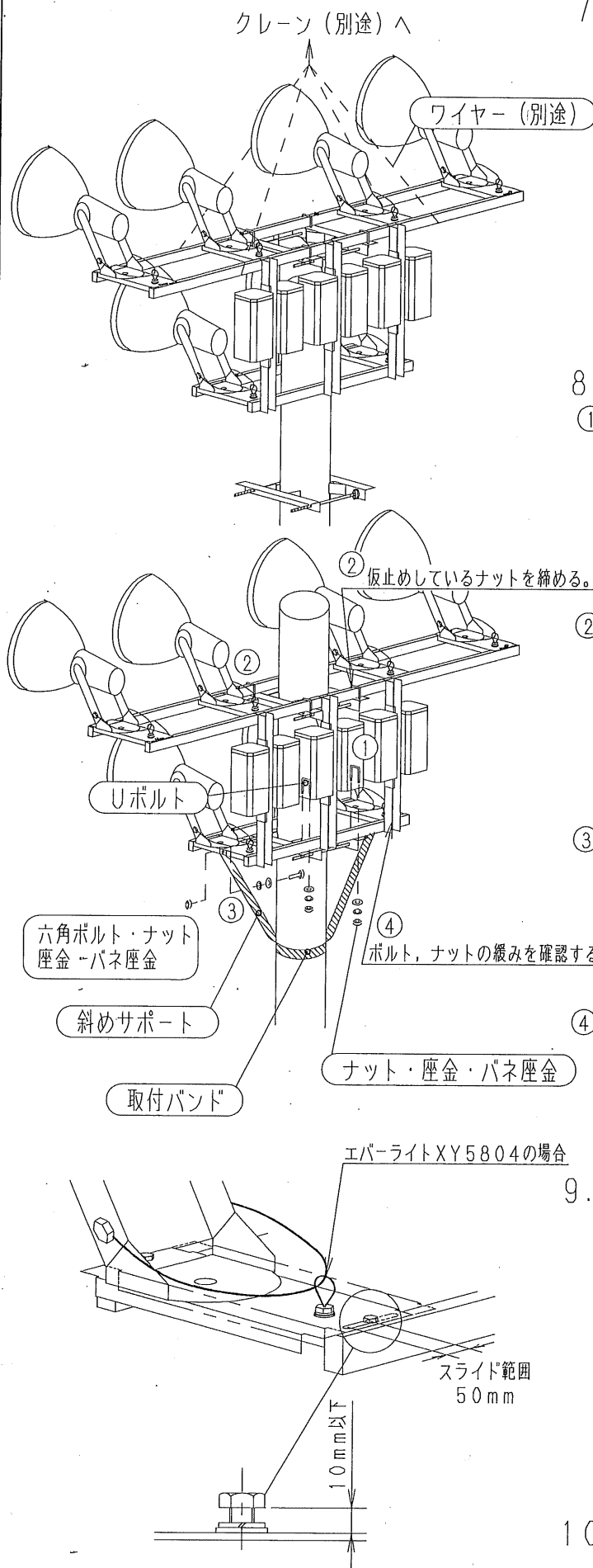
投光器台バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

(照射方向)



※照射方向に対して右図の向きに取り付けてください。





7. 投光器台の吊り上げ

上段の投光器台にワイヤーを掛け、クレーンで吊り上げ、コンクリートポールに通す。

- ・ワイヤー、クレーンは総重量に耐えるものをご使用ください。ワイヤーの強度およびクレーンの能力が不十分な場合は落下・事故の原因となります。
- ・架台がかたむかないようにワイヤーをかけてください。また、ワイヤーは必ず投光器台の角パイプ部分にかけてください。落下の原因となります。
- ・ワイヤーは投光器台がコンクリートポールに完全に固定されるまで外さないでください。落下の原因となります。

8. 投光器台の取り付け

- ① 投光器台を投光器台バンド (下段用) の上に乗せ、Uボルトを通しナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・ナットは確実に締め付けてください。ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
 - ・投光器台は水平で、かつポールがセンターにくるように取り付けてください。落下の原因となります。
- ② 上段の投光器台に仮止めしている投光器台バンドを固定ボルト (M12)、ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にてコンクリートポールに締め付け、投光器台をUボルト、ナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・投光器台バンドおよびナットは確実に締め付けてください。投光器台バンドおよびナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ③ 斜めサポートの上部を下段の投光器台の取付板の外側にボルト (M10) ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定し、下部を取付バンドでコンクリートポールに固定する。
 - ・ボルト、ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。ボルト、ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ④ 安定器取付台、補助上下サポートのボルト、ナットの緩みがないかを確認する。(8ヶ所)
 - ・ボルト、ナットに緩みがある場合は必ず増し締めしてください。ボルト、ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

9. 投光器配光の調整

照射・配光方向を確認して投光器の角度を調整してください。

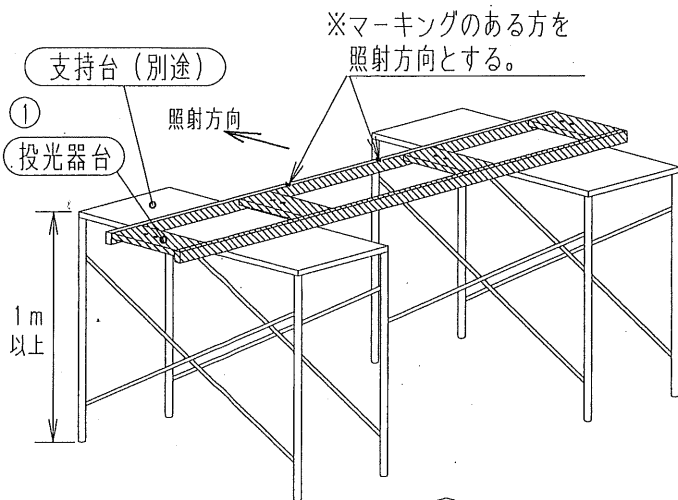
- ・投光器台両端の取付板をスライド (範囲: 50 mm) させ広くとすると、照射方向を大きくすることができます。(1kW用投光器の場合)
- ・固定ボルトは外さずに 10 mm 緩めてスライドさせてください。固定ボルトを外したり外れそうな状態でスライドさせると投光器落下の原因となります。
- ・ボルト (M10)、ナットは締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。固定ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

10. 電源の接続

電源線 (別途) と安定器の一次側を結線する。

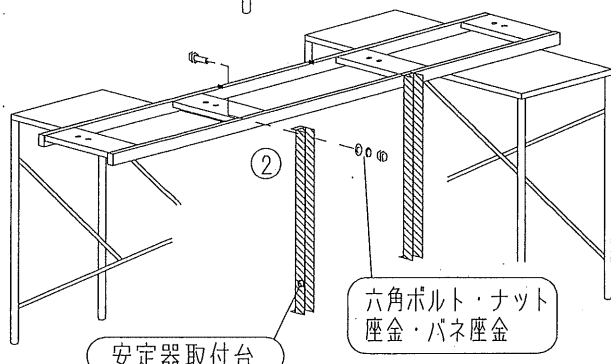
- ・詳細は投光器、安定器の取扱説明書をご参照ください。

各部の名前と取り付けかた (XSS24 その1)

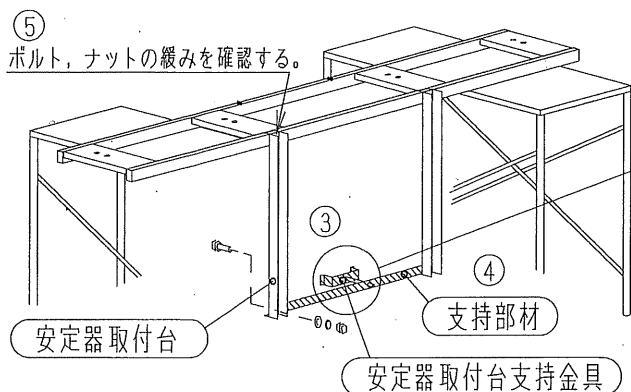


1. 投光器台の組み立て

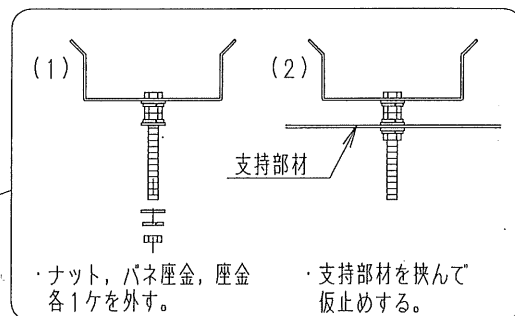
- ① 支持台（足場等）を適当な間隔で設置し、その上に投光器台を乗せる。
・支持台は十分な強度を有するものをご用意ください。
支持台の強度が不十分な場合は投光器台の転倒の原因となります。
・支持台の高さは1 m以上が必要です。



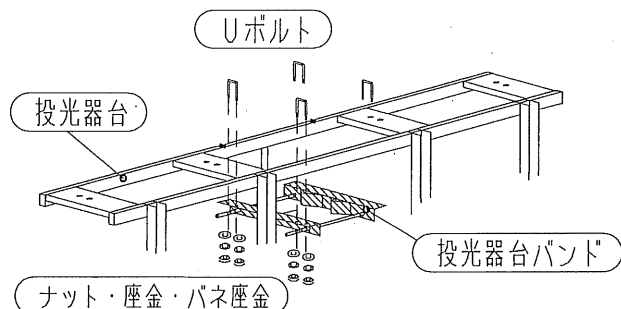
- ② 安定器取付台をボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。
・上下方向は貼られているラベルの向きにしたがってください。



- ③ 支持部材に安定器取付台支持金具をボルト, ナットで仮止める。



- ④ 安定器取付台に支持部材をボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて取り付け。
- ⑤ 全体の垂直を水準器等で確認しボルト, ナットの増し締めを行なう。(4カ所)
・ボルト, ナットは確実に締め付けてください。
ボルト, ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。



※投光器台バンドがスライドできるように仮止めとする。

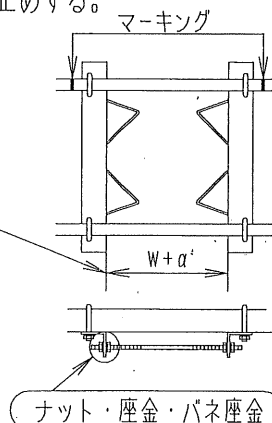
2. 投光器台バンドの取り付け

マーキングを目安にして投光器台中央部に投光器台バンドを下から当てUボルト, ナットで仮止める。

※下表を参考に実際に取り付けるサイズよりも大きめにしておく。

コンクリート柱取付時のW寸法

取付位置	コンクリート柱の 未口徑	φ190	φ220	φ240
ポール先端から50cm		213mm	258mm	288mm
ポール先端から140cm		231mm	276mm	306mm



各部の名前と取り付けかた (XSS24 その2)

3. 投光器の取り付け

投光器を投光器台の取付板にボルト2本で取り付ける。

・ボルト (M16) は締付トルク $111 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

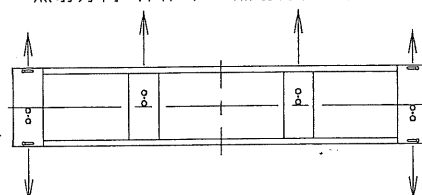
落下防止ワイヤー付ボルトを六角ナットで投光器台に固定する。

・ボルト (M10) は締付トルク $37 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

・投光器の配置は必ず左右対称となるように取り付けてください。

アンバランスな投光器の配置は落下の原因となります。

照射方向 (固定) 照射方向 (固定)



投光器台両端の取付板は、反対向きに取付けると、照射方向を変えることができます。

照射方向 (変更可)

照射方向 (変更可)

・取付板の向き変更は必ず地上にて行なってください。

高所作業は落下事故の原因となります。

4. 安定器の取り付け

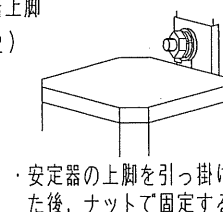
安定器取付台に安定器を取り付ける。

安定器上脚

(1)

(2)

・ナット1ケ、バネ座金、座金を緩める。



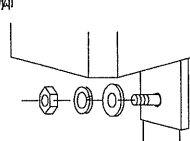
・安定器の上脚を引っ掛けた後、ナットで固定する。

安定器下脚

(1)

(2)

・ナット1ケ、バネ座金、座金を外す。



・安定器の下脚をナットで固定する。

・ナット (M8) は締付トルク $13 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

5. 投光器, 安定器の配線工事

投光器と安定器二次側の結線をする。

・詳細は投光器, 安定器の取扱説明書をご参照ください。

6. 投光器台の吊り上げ

投光器台にワイヤーを掛け、クレーンで吊り上げ、コンクリートポールに通す。

・ワイヤー, クレーンは総重量に耐えるものをご使用ください。

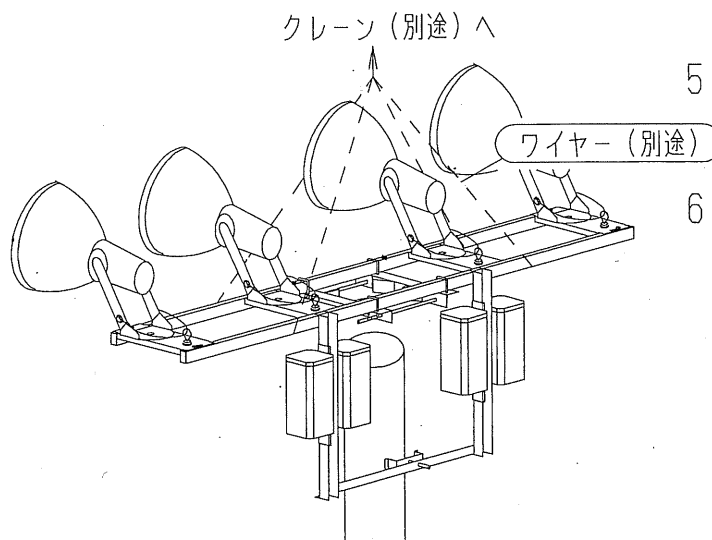
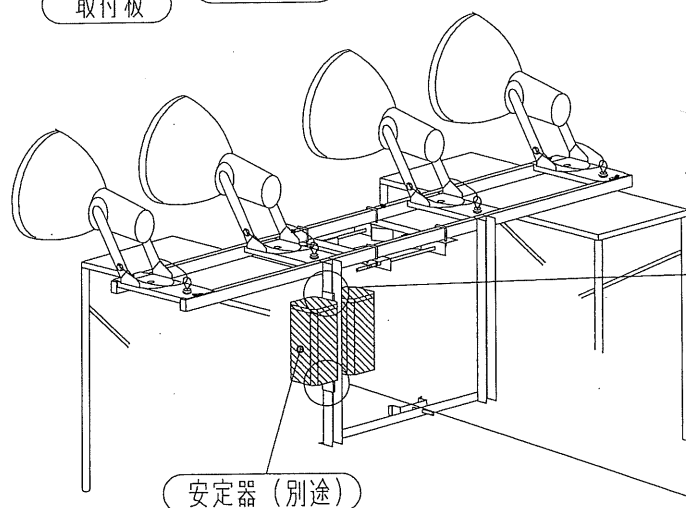
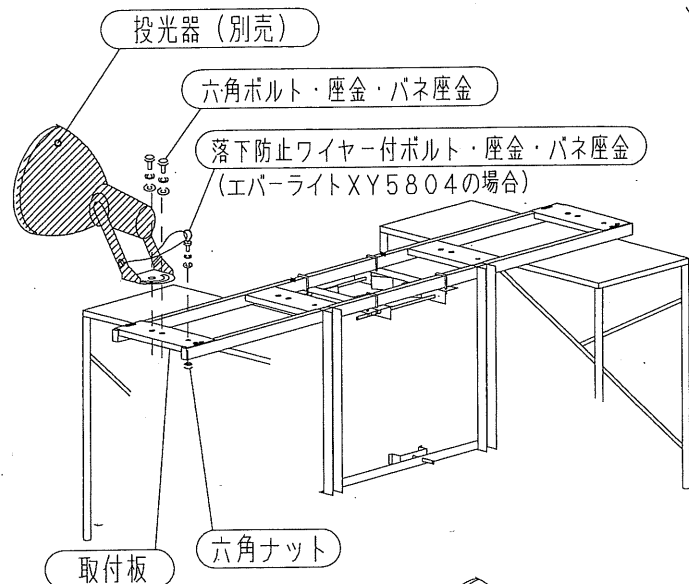
ワイヤーの強度およびクレーンの能力が不十分な場合は落下・事故の原因となります。

・架台がかたむかないようにワイヤーをかけてください。また、ワイヤーは必ず投光器台の角パイプ部分にかけてください。

落下の原因となります。

・ワイヤーは投光器台がコンクリート柱に完全に固定されるまで外さないでください。

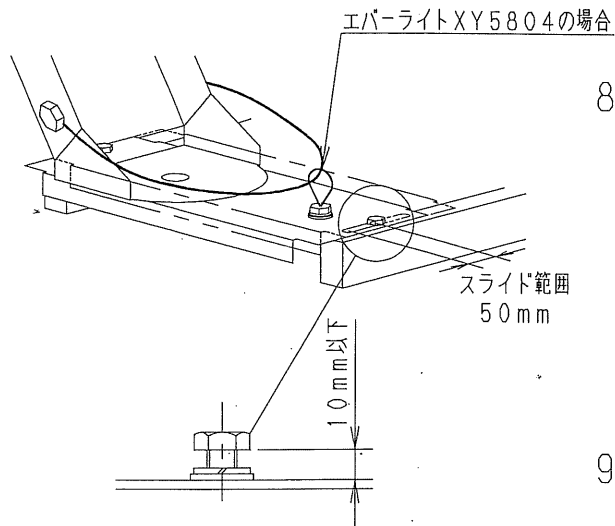
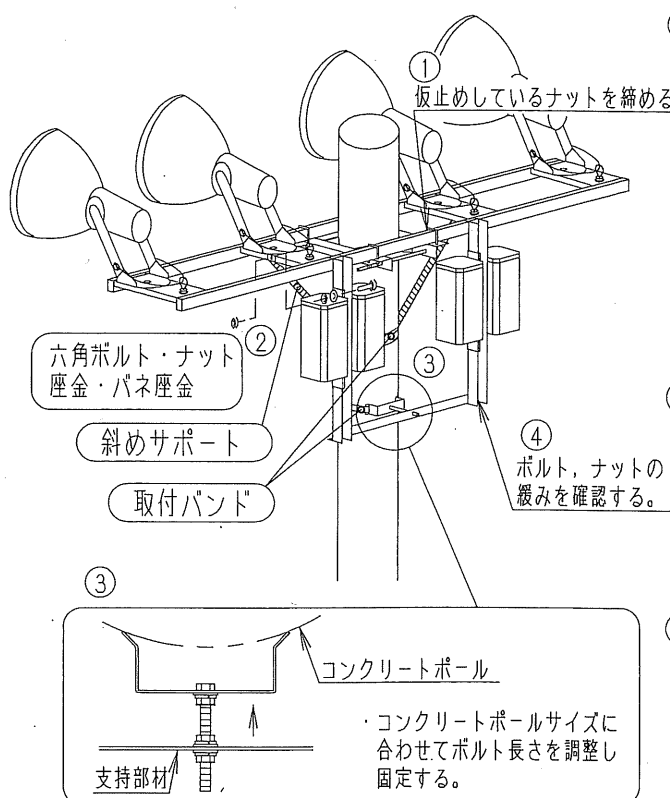
落下の原因となります。



各部の名前と取り付けかた (XSS24 その3)

7. 投光器台の取り付け

- ① 投光器台に仮止めしている投光器台バンドを固定ボルト (M12)、ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にてコンクリートポールに締め付け、投光器台をUボルト、ナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・投光器台バンドおよびナットは確実に締め付けてください。投光器台バンドおよびナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
 - ・投光器台は水平で、かつポールがセンターにくるように取り付けてください。落下の原因となります。
- ② 斜めサポートの上部を投光器台の取付板の外側にボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定し、下部を取付バンドでコンクリートポールに固定する。
 - ・ボルト、ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。ボルト、ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ③ 安定器取付台支持金具に取付バンドを通してコンクリートポールに固定し、仮止めしている支持部材のボルト (M10)、ナットを締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。
 - ・ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。
- ④ 安定器取付台のボルト、ナットの緩みがないかを確認する。(4ヶ所)
 - ・ボルト、ナットに緩みがある場合は必ず増し締めしてください。ボルト、ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。



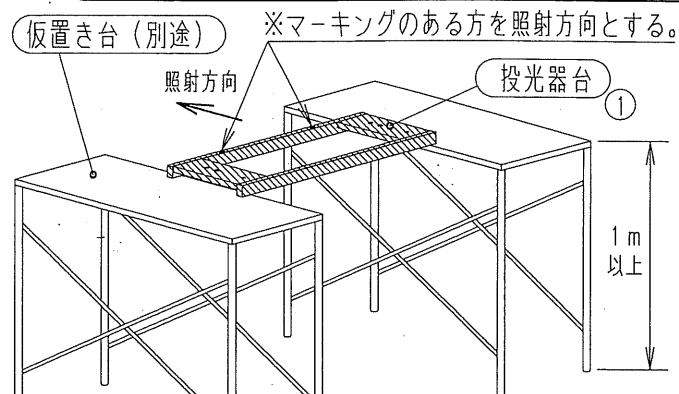
8. 投光器配光の調整

- 照射・配光方向を確認して投光器の角度を調整してください。
- ・投光器台両端の取付板をスライド (範囲: 50 mm) させ広くと照射方向を大きくすることができます。(1kW用投光器の場合)
 - ・固定ボルトは外さずに 10 mm 緩めてスライドさせてください。固定ボルトを外したり外れそうな状態でスライドさせると投光器落下の原因となります。
 - ・ボルト (M10)、ナットは締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて、および取付バンドは確実に締め付けてください。固定ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

9. 電源の接続

- 電源線 (別途) と安定器の一次側を結線する。
- ・詳細は投光器、安定器の取扱説明書をご参照ください。

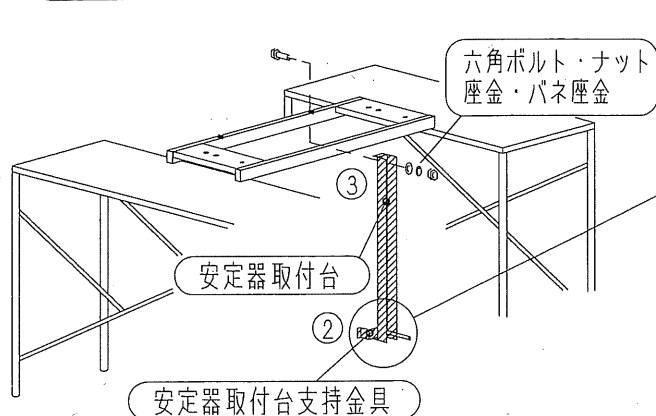
各部の名前と取り付けかた (XSS22 その1)



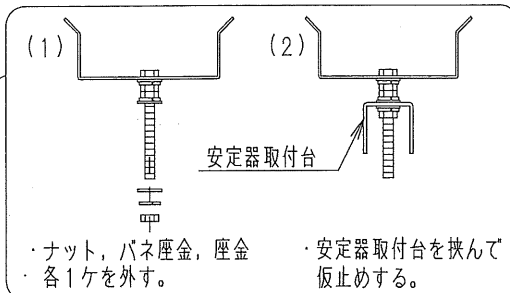
1. 投光器台の組み立て

- ① 支持台 (足場等) を適当な間隔で設置し、その上に投光器台を乗せる。
 - ・支持台は十分な強度を有するものをご用意ください。支持台の強度が不十分な場合は投光器台の転倒の原因となります。
 - ・支持台の高さは 1 m 以上必要です。

各部の名前と取り付けかた (XSS22 その2)



- ② 安定器取付台に安定器取付台支持金具をボルト、ナットで仮止めする。



- ③ 安定器取付台をボルト (M10)、ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて投光器台に取り付ける。

- ・上下方向は貼られているラベルの向きにしたがってください。
 - ・ボルト、ナットは確実に締め付けてください。
- ボルト、ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

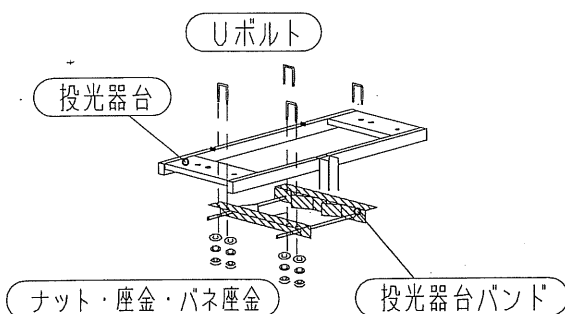
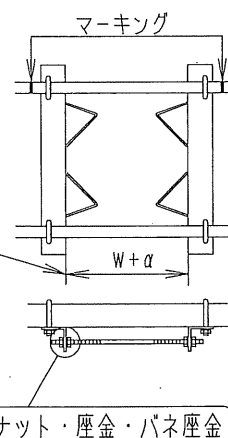
2. 投光器台バンドの取り付け

マーキングを目安にして投光器台中央部に投光器台バンドを下から当て、Uボルト、ナットで仮止めする。

※下表を参考に実際に取り付けるサイズよりも大きめにしておく。

コンクリート柱取付時のW寸法

取付位置	コンクリート柱の 開口径	φ190	φ220	φ240
ポール先端から50cm		213mm	258mm	288mm
ポール先端から140cm		231mm	276mm	306mm



3. 投光器の取り付け

投光器を投光器台の取付板にボルト2本で取り付ける。

- ・ボルト (M16) は締付トルク $111 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

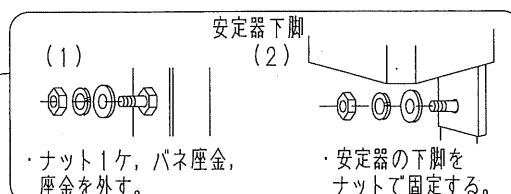
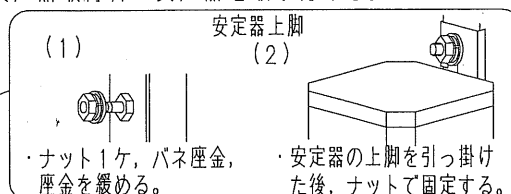
ボルトの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

落下防止ワイヤー付ボルトを六角ナットで投光器台に固定する。

- ・ボルト (M10) は締付トルク $37 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。
 - ・投光器の配置は必ず左右対称となるように取り付けてください。
- アンバランスな投光器の配置は落下の原因となります。

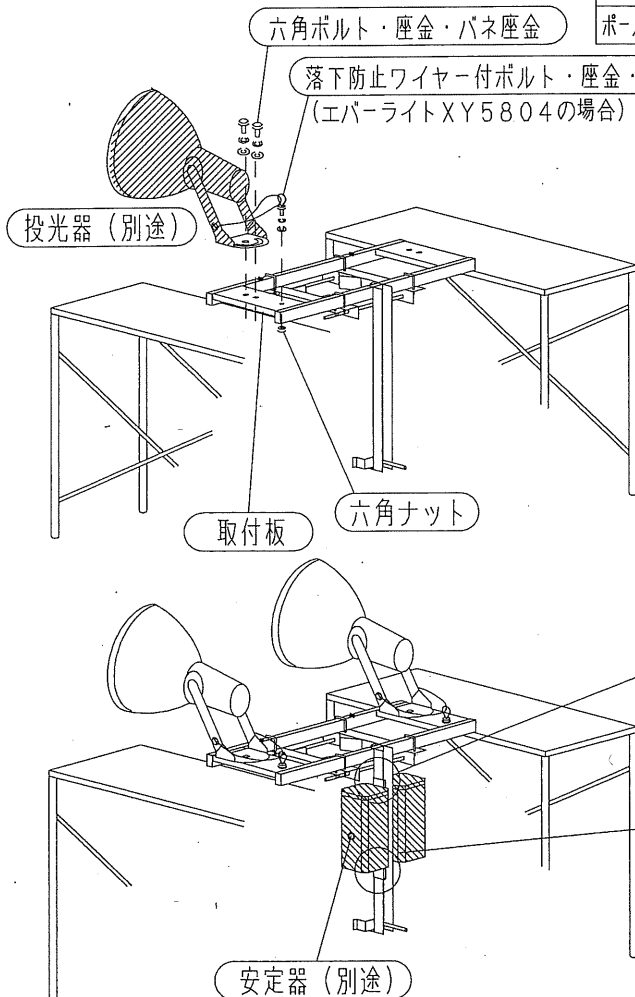
4. 安定器の取り付け

安定器取付台に安定器を取り付ける。



- ・ナット (M8) は締付トルク $13 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて確実に締め付けてください。

ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

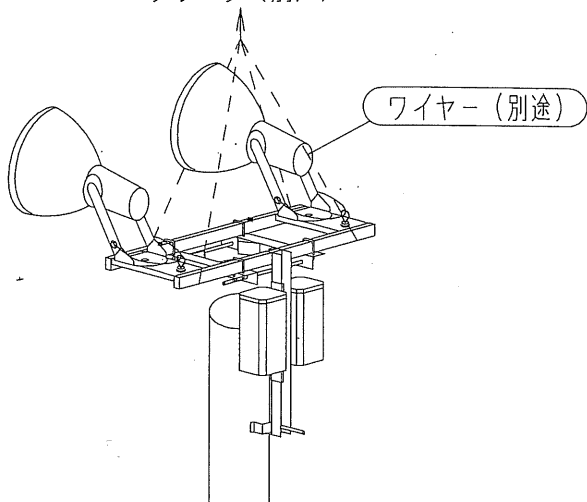


5. 投光器, 安定器の配線工事

投光器と安定器二次側の結線をする。

・詳細は投光器, 安定器の取扱説明書をご参照ください。

クレーン (別途) へ



6. 投光器台の吊り上げ

投光器台にワイヤーを掛け、クレーンで吊り上げ、コンクリートポールに通す。

・ワイヤー, クレーンは総重量に耐えるものをご使用ください。

ワイヤーの強度およびクレーンの能力が不十分な場合は落下・事故の原因となります。

・架台がかたむかないようにワイヤーをかけてください。また、ワイヤーは必ず投光器台の角パイプ部分にかけてください。

落下・事故の原因となります。

・ワイヤーは投光器台がコンクリートポールに完全に固定されるまで外さないでください。

落下・事故の原因となります。

7. 投光器台の取り付け

- ① 投光器台に仮止めしている投光器台バンドを固定ボルト (M12), ナットで締付トルク $45 \text{ N} \cdot \text{m}$ にてコンクリートポールに締め付け、投光器台をUボルト, ナット (M10) で締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。

・投光器台バンドおよびナットは確実に締め付けてください。

投光器台バンドおよびナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

・投光器台は水平で、かつポールがセンターにくるように取り付けてください。

落下の原因となります。

- ② 斜めサポートの上部を下端の投光器台の取付板の外側にボルト (M10), ナットで締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定し、下部を取付バンドでコンクリートポールに固定する。

・ボルト, ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。

ボルト, ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

- ③ 安定器取付台支持金具に取付バンドを通してコンクリートポールに固定し、仮止めしている支持部材のボルト (M10), ナットを締付トルク $26 \text{ N} \cdot \text{m}$ にて固定する。

・ナットおよび取付バンドは確実に締め付けてください。

ナットおよび取付バンドの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

- ④ 安定器取付台のボルト, ナットの緩みがないかを確認する。(上側1ヶ所)

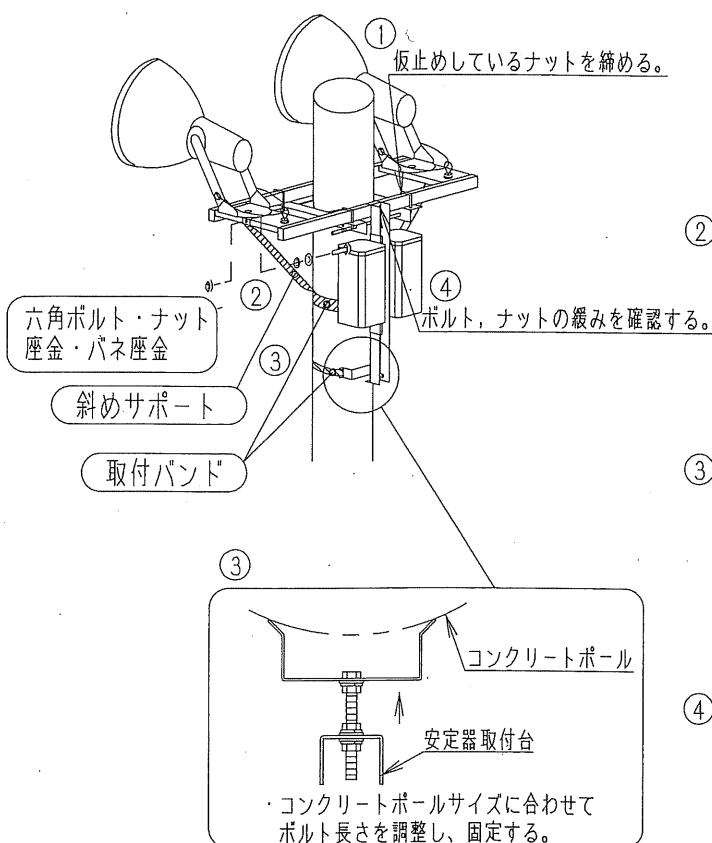
・ボルト, ナットに緩みがある場合は必ず増し締めしてください。

ボルト, ナットの締め付けが不十分な場合は落下の原因となります。

8. 電源の接続

電源線 (別途) と安定器の一次側を結線する。

・詳細は投光器, 安定器の取扱説明書をご参照ください。



取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

・使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意



警告

- 投光器台を改造しない。
落下の原因となります。
- 投光器台を故意にゆすったり、投光器台に衝撃を加えたりすることは絶対に行わない。
落下の原因となります。
- メンテナンス以外の目的で投光器台の上に登ったりすることは絶対に行わない。
落下事故の原因となります。
- ランプ交換やお手入れの際は、灯具の取扱説明書の指示にしたがう。
感電・火傷・灯具落下等の原因となります。
- 異常状態のままで使用しない。
万一、表面のメッキがはげたり腐食が著しいなどの異常状態のままで使用すると
落下の原因となります。
すぐに工事店に修理を依頼してください。



注意

- 投光器台・投光器の施工は、必ず工事店・電気店（有資格者）に依頼してください。
一般の方の施工は、法律で禁止されています。
- ランプ交換、お手入れの際には必ずボルト、ナットの緩み、部材の腐食等も併せて確認してください。
落下の原因となります。
- 本商品は、定期的な保守点検が必要です。
保守点検には、専門知識を必要としますので、専門のサービス会社との
メンテナンス契約をお勧めします。
※パナソニックサービス会社とのメンテナンス契約をお勧めします。
- 本商品には寿命があります。
使用環境によるストレスにより腐食や金属疲労等の劣化は進行しています。
点検・補修・交換してください。
 - ・ 塩害地域、植栽に設置の場合などは寿命が短くなります。
 - ・ 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
 - ・ 3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。点検せずに長期間使い続けるとまれに折れ、落下に至る場合があります。

保証について

- 1：保証について
この商品の保証期間は1年間です。
但し、消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- 2：保証書について
保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- 3：補修用性能部品の保有期間
弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。
補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。